

執筆者情報とコメント

吉田 健太（よしだ けんた）

那覇市市民文化部文化財課埋蔵文化財グループ所属。主任学芸員。

那覇市内において、縄文時代晩期の竪穴住居跡が確認できた事例は少なく、今回確認された竪穴住居跡はその数少ない例の一つとなりました。那覇市には縄文遺跡が少ないのではなく、まだ見つかってないだけということ気付かされた調査でもありました。調査にあたり御協力頂きました識名地域の皆様に改めて御礼申し上げます。

田口 恵（たぐち めぐみ）

那覇市市民文化部文化財課歴史博物館グループ所属。非常勤古文書解読員。

今回は展示会で取り上げた伊藤半次という人物が野重23連隊に所属していたことをきっかけに、その部隊の動向をさぐっていたが、沖縄戦における各部隊の動向となると未だ研究がされていないところが多いことに気づかされた。また、野重23連隊の慰霊碑建立や慰霊祭に関する資料を調べたことで、沖縄戦が慰霊という形で連綿と続いていることを実感した。

この稿をまとめるにあたり外間政明氏に御助言をいただいたことをここに記して感謝いたします。

山田 葉子（やまだ ようこ）

那覇市市民文化部文化財課歴史博物館グループ所属。非常勤主任学芸員。

琉球王国時代の染織関係資料は年代が特定できるものが非常に少ない。そのため、織物図案に年代を示す文字情報が付帯している「御絵図」資料は、琉球の織物研究において基準資料となる重要な資料である。この資料紹介を端緒として、琉球織物研究がより深化していくことを期待している。

なお、今回は2冊分しか報告できなかったが、号を改めて残り5冊の調査データも報告する予定である。また、御絵図が貼りつけられた冊子側の一部にも同様の文字情報と印が確認できるため、この部分についてもいずれは報告をしたいと考えている。

この稿をまとめるにあたり、鈴木悠氏と田口恵氏に多大なご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。